

愛知登文会ニュース 第34号

令和5年4月27日発行

1 事業実施報告「登録文化財保存活用シンポジウム」(2022度)

愛知登文会 12年目は文化庁補助のない年でしたが、2回のシンポを会場とZoom併用で開催しました。

第1回 「情報発信による登録有形文化財の保存と活用」

文化財の保存と活用について「情報発信」という切り口から講演いただきました。愛知工業大学の小栗氏からは、文化財の保存と活用にSNSを有効活用する方法について各SNSの特性を交えながら解説していただきました。半田市観光協会観光ディレクターの池脇氏は、ウィキペディアタウンの取り組みと効果について説明いただき、過去の事例をもとにイベント成功のコツなどを紹介いただきました。

R4.11.16(水)	内容	参加者
14:00~ 16:30	①「登録有形文化財の保存と活用」について「情報発信」の切り口で解説 講師：小栗宏次氏（愛知登文会会長・愛知県立大学教授） ②SNSを利用した登録有形文化財情報の発信と共有 講師：小栗真弥氏（愛知工業大学助教） ③文化財×ウィキペディアタウン -基礎知識と成功のコツ 講師：池脇啓太氏（半田市観光協会観光ディレクター） ④意見交換 コーディネーター：小栗宏次	23名 (講師・事務局含む)



▲会場の様子



▲情報発信についての解説



▲意見交換の様子

第2回 「宿泊施設としての文化財の活用」

文化財を宿泊施設として活用されるお二人にそれぞれの取り組みを紹介いただきました。小山田氏からは所有する「樅峰苑」について、藤巻氏からは手掛けているテレビ塔の「ザ・タワーホテル」について、文化財を活用するまでの経緯や手法、文化財に劣らない質の高いサービス内容をお話いただきました。

R5.2.7(火)	内容	参加者
14:00~ 16:30	①国登録有形文化財を宿泊施設にする意義 講師：小山田明氏（秋田登文会事務局、強首温泉 樅峰苑） ②特殊な建物をホテルにした事例とその活用 講師：藤巻満氏（株式会社アメーバホールディングス 代表取締役） ③意見交換 コーディネーター：小栗宏次（愛知登文会会長・愛知県立大学教授）	39名 (講師・事務局含む)



▲樅峰苑について解説する小山田氏



▲ザ・タワーホテルについて解説する藤巻氏



▲意見交換の様子

2 事業実施報告「あいちのたてもの 明治村編」(2022 度)

愛知県内の登録有形文化財魅力紹介冊子「あいちのたてもの」シリーズは、2018 年度から文化庁の補助を受けて「ものづくり編」「まなびや編」「いのりのば編」「すまい編」を制作してきました。2022 年度は文化庁の補助がいただけない年度となっており、当初は発行を断念していましたが、ご好評いただいている冊子を継続して発行したいという思いから、かねてより特集でとりあげてきた「博物館 明治村」の魅力をこの機会に改めて紹介できないかと考えました。そこで、明治村の方に相談したところ、全面協力が得られ、クラウドファンディングで資金を募ることとなりました。

予想を超える多くの方々からご支援をいただくとともに、公益信託大成建設自然・歴史環境基金の助成金も受けることができ、当初予定よりもボリュームアップした冊子が完成しました。

クラウドファンディング「明治村の魅力を伝える『あいちのたてもの 明治村編』を作りたい」

愛知登文会として初めてのクラウドファンディングです。2021 年度のシンポジウムに講師として招いた READYFOR のサービスを利用しました。

プロジェクトの期間は令和 4 年 8 月 3 日～9 月 30 日。当初目標の 150 万円を 10 日間で達成することができ、ネクスト目標を 220 万円に設定、最終的には 176 人から 284 万 9 千円のご支援をいただくことができました。ご支援いただいた皆さまに改めて感謝申し上げます。

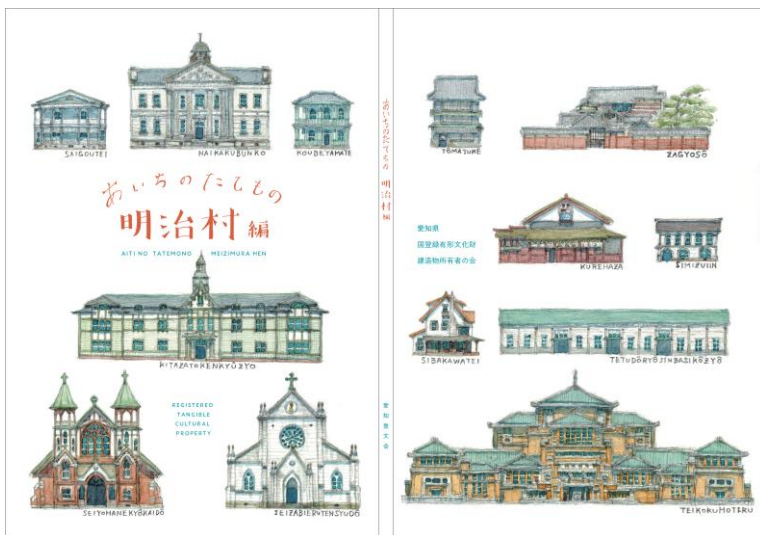
明治村の SNS で情報発信していただいたところ、「明治村が大好きです。応援します」「明治村の魅力を広く伝える素敵な冊子を作ってください」など多くの明治村ファンの方から支援が寄せられました。明治村は近代建築の保存活用を牽引してきた愛知県が誇る文化遺産です。この冊子を通じてその意義と魅力が伝わり、明治村ファンが増えることを願っています。

リターン別支援者数

リターン内容	支援金額	支援者数	支援総額
お手軽応援	¥2,000	54人(57口)	¥114,000
純粹応援	¥10,000	22人(24口)	¥240,000
明治村編5冊	¥10,000	37人	¥370,000
シリーズ5冊セット	¥20,000	40人	¥800,000
村瀬ツアー	¥30,000	3人	¥90,000
広告協賛	¥100,000	6人(10口)	¥1,000,000
明治村堪能ツアー	¥150,000	1人	¥150,000
イラスト作成	¥200,000	0人	¥0
追加(明治村編2冊)	¥5,000	17人	¥85,000
合計		180人	¥2,849,000

※複数のリターンへの支援があり、合計が176人を上回っている

あいちのたてもの 明治村編



力作の表紙、右下は帝国ホテル、移築できなかった両翼と奥の建物も描かれている

今回の冊子には、「あいちのたてもの」シリーズの制作で執筆とイラストを担当いただいている建築史家村瀬良太氏の強い思いが込められています。

村瀬氏は、明治村に創設期から関わり続けてきた恩師の飯田喜四郎先生から折に触れその話を聞いており、それを何らかの形で残したいという思いがありました。冊子の巻頭 18 ページにわたるインタビューに加え、帝国ホテル中央玄関の移築と復原に関する 4 ページのインタビューを掲載しています。インタビューは 1 年以上にわたって行われたとのこと。創設期の熱気の感じられる、読んでいただきたい興味深い話が満載です。

また、明治村には重要文化財 11 件、愛知県指定文化財 1 件、登録有形文化財 52 件の建造物があり、その中から 13 件を見開きで、14 件を 6 つのテーマにわけて紹介するほか、明治村を支える 4 名の方の寄稿・インタビューも掲載しています。これまでにない形の明治村の魅力を紹介する冊子になっているかと思えます。ぜひ、この冊子を片手に明治村散策をお楽しみください。

この冊子は会員の皆様に配布するほか、愛知、岐阜、三重、静岡、東京、大阪、京都の各図書館に寄贈しています。さらに、今回支援いただいた資金を使って愛知県内の中学校・高等学校の図書館にも送付しました。また、これまでのものも含め当会ホームページでも公開中です。

3 県外視察報告—愛知登文会独自事業（2022年度）

彦根市犬方町・愛荘町愛知川・東近江市五箇荘を訪ねて 愛知登文会相談役 小川芳範

令和4年11月30日、天野副会長はじめ14名が登文会設立に取り組み滋賀県の視察に参加しました。当日は、京都登文会会長の塚本喜左衛門様の御案内で4カ所の文化財建造物の見学ができました。

最初は、彦根市犬方町に所在する登録文化財若林家住宅を訪ねました。兵庫県在住の所有者若林三都子様の御案内で非公開の建物の見学をしました。昭和前期に建てられた若林製糸紡績の創業者の住宅で、主屋、洋室棟をはじめ8件が登録文化財として保存されています。修理費は国庫補助の対象ではありませんが、当日は補助対象となった修理事業のお話が聞けました。

次に、愛荘町愛知川に所在する日本料理店「竹平楼」を訪ねました。江戸時代後期に愛知川宿に創業した旅籠で、明治11年(1878)の天皇巡幸の際に建てられた登録文化財竹平楼御在所は質の高い数寄屋風書院です。同じく竹平楼広間は明治44年(1911)に建てられた書院風広間です。昼食は、大きな卵を孕んだ名物「鯉のあめ煮」などに舌鼓を打ちました。

午後は、東近江市五箇荘山本町に所在する登録文化財小泉家住宅を所有者の小泉陽助様、美恵様の御案内で見学しました。幕末から昭和初期に建てられた14件の登録文化財所在し、近江商人本宅の屋敷構えが良好に保存されています。

最後に、同じ五箇荘の金堂町に所在する重伝建地区内の塚本喜左衛門様のお宅を訪問しました。五箇荘は近江八幡同様近江商人の拠点ですが、町並みの特徴は近江八幡が商いの拠点である商家町に対して、商人の住まいの拠点である農村集落となっています。

今回の視察は登録文化財の在り方を考える貴重な機会となりました。住まいとして利用されていない建物群、生業を継承しつつける建物、企業の研修施設としての道筋を付けた建物群など、文化財の価値を継承するとともに使い続ける登録文化財の在り方について、所有者の会のネットワークを通して、情報共有が一層進むことを願っています。



◀若林家住宅の前で記念撮影



◀日本料理店「竹平楼」



箕家の雛人形

愛知登文会理事 箕清澄

ひな祭りが近づくと、各地から雛人形の話が届くようになり、箕家でも桃の節句に合わせて床の間に雛人形の飾り付けをしました。

現在の雛人形のスタイルは江戸時代に完成したと言われていて、幕府の式楽であった能楽を奏するのが五人囃子です。それは、大人顔負けの演奏をする元服前の少年「能楽師」の姿なのです。

箕家の先代、箕鉦一は大鼓方の能楽師でしたので、特に五人囃子に強いこだわりがあるのですが、最近では名匠作だと飾られる雛段でも五人囃子の並び方や鼓や笛などお道具の持ち方の間違いがとて多く…それでは欠陥品と、思いながら見てしまいます。

今回はせっかくなので、皆さん五人囃子の正しい並び方を覚えてください。

一番右に「謡」が扇を持って謡います。

次に「笛」。両手で能管を持ちます。

真ん中は「小鼓」。右肩に鼓を置き左手で持

ち支えます。床几椅子に座っています。小鼓の皮には調べという紐を通す穴に漆で花形が描かれています。

次は「大鼓」。左の腰に鼓を構えます。大鼓の皮は漆細工の無いものです。小鼓と同じく床几椅子に座ります。

一番左は「太鼓」両手にばちを持ちます。（音の出る場所が右から左へ順番に下がっていくと覚えてください。）

ひな祭りといえはいくつになっても人形が飾られるのを見るのは楽しいようで、私の母の友人たちが何人も遊びに来て、ひな壇を見入っていました。

最近では床の間のある家がすっかり珍しくなりましたが、お花や掛け軸、そして季節飾りが出来る場所があることで日本の文化の深さを感じられるように思います。

この登録文化財である自宅をしっかりと守っていかなければと改めて思う瞬間です。



床の間



五人囃子

4 あいちのたてもの博覧会（2023年度からの新たな展開）

平成26年度から登録有形文化財を対象に実施してきた「あいちのたてもの博覧会」（建物特別公開）を今年度からは対象を指定・未指定文化財まで広げ、愛知登文会とNPO法人あいちヘリテージ協議会、NPO法人なごや歴まちの会の参加による新たな実行委員会のもとで開催していくことになりました。実行委員長はあいたて博の解説や冊子「あいちのたてもの」シリーズの制作にご協力いただいている建築史家の村瀬良太氏です。また、名誉会長は飯田喜四郎先生にお願いしています。

建築学会の会報「建築雑誌」1月号の特集として「建築鑑賞」が取りあげられています。イケフェス大阪をはじめ各地で建物見学を楽しむイベントが開催されており、建築を見て話しを聞いて楽しむといったことに関心を持つ人々が増えてきていると感じています。



京都モダン建築祭の開催レポート。WEBで閲覧できる

昨年からは京都モダン建築祭という取組もスタートしました。3日間の取組で対象建物は36箇所と多くはありませんでしたが、参加者とスタッフの多さに驚きました。クラウドファンディングと企業協賛で運営しており、参加に必要となるパスポート（有料）は5千枚も発行され、延べ3万人の参加があったと報告されています。

あいたて博は大阪や京都の取組と比べて、まだまだ広がりには欠けていますが、大阪や京都にはない、あいたて博ならではの良さ（所有者との交流など）を感じられるような取り組みに育てていくことができると考えています。皆さまのご支援・ご協力をお願いします。



県内の登録文化財の事例紹介

vol.12

川田家住宅主屋(扶桑町)

当家は犬山市の西隣、丹羽郡扶桑町の農耕地帯に立地します。大正6年に旧丹羽郡羽黒村（現犬山市）の稲置街道筋にあった町家を購入し移築。その際に主屋のオモチとウラを入れ替えることで、町家の特徴である「奥座敷」が「表座敷」となるなど、町家を農家住宅にうまく転用したことが特徴です。明治末期から養蚕で栄えた地域であり、総2階の養蚕専用室や天井など随所にお蚕様のための設えが残り養蚕道具も常時展示しています。先祖は畑作農家。大根の種売りから積み上げ、保険・金融業に拡大して一定の地位を築いたと思われます。

平成25年以降空家家となってしまった主屋ですが、平成30年11月に登録が認められ、以後毎年秋のあいたて博に合わせた建物公開事業に取り組むほか、レンタルスペースとしての活用を進めてきました。

平成28年から続けている月1回の高齢者サロン、年1～2回の講演会企画、趣味活動への貸室など。令和4年からはSNSでの情報発信に力を入れ、子育て世代向けのご利用が大幅に増えました。お子様の記念撮影会場として、子育てママ向けの教室やサロンの定期利用など、多くの方々にご利用いただいております。そのほか地元で歴史民俗資料館がないため、小さな民間資料室の役割ができないかと模索し、昨夏は養蚕道具の企画展も取り組みました。今後は傷みが出始めている部分を補修しつつ、あと何年か維持していくことが出来れば、と悩みながら模索する日々です。

酒井 外美江



編集後記

2022年度は文化庁の補助事業がなく、規模を縮小した活動となりましたが、会員のみなさまのご協力によりあいたて博を継続実施できたほか、クラウドファンディングにも取り組むなど、新たな展開につながる年となりました。

今年度からは新たに文化庁補助事業の採択を受けることができ、新しい取組も実施する予定です。補助対象の変更があり、採択が難しいかと思われた「あいちのたてもの まちのシンボル編」も制作できます。すでにその内容検討も進めています。皆さまのご協力もお願いいたします。

愛知登文会ニュース 第34号

発行日：令和5年4月27日
 発行者：愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
 〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目6番15号先
 名古屋テレビ塔株式会社内
 TEL 052-971-8546 FAX 052-961-0561
 E-mail info@aichi-tobunkai.org
 HP http://www.aichi-tobunkai.org
 Facebook @aichi.tobunkai
 Twitter @aichitobunkai
 Instagram aichitobunkai



LINE
 (自動応答)